

80年代アニメ論・その6

高橋良輔

ダグラム～レイズナーまで

出口 憲

今日の講演内容

- はじめに
- 太陽の牙ダグラム
- 装甲騎兵ボトムズ
- 機甲界ガリアン
- 蒼き流星 SPT レイズナー
- まとめ

はじめに

- 出口は 1969 年生まれ
- 1980 年代は 11 ~ 20 歳だったので 80 年代のアニメを見て育った
- 11 歳のとき、ガンダムがブームとなり、友達からザブングルを見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画（週 20 ~ 30 本くらいは見ていたはず）

はじめに

- 80年代アニメを語る上で「機動戦士ガンダム」の影響は無視できない
- その結果、80年代は「柳の下のドジョウ」を狙うリアルロボットと呼ばれる作品が続々登場することになった
- 中でも高橋良輔の作品は富野由悠季の作品群と双璧をなすといっていよう
- 今回は掘り下げ方が甘いと思います

高橋良輔の経歴

- 会社員をしながら明治大学二部（夜間）に通っていたとき、友人から「虫プロ」を紹介され入社（富野由悠季も虫プロ）
- その後、サンライズ作品に関わる
- 1981年「太陽の牙ダグラム」
- 1983年「装甲騎兵ボトムズ」
- 1984年「機甲界ガリアン」
- 1985年「蒼き流星 SPT レイズナー」

太陽の牙ダグラム

太陽の牙ダグラムの特徴

- 高橋良輔のリアルロボット初作品
- 植民星デロイアにおける地球からの独立運動が主要テーマ
- ダグラムはゲリラ側が開発したコンバット（CB）アーマー（この世界ではロボットがそう呼ばれる）
- CBアーマーはコックピットがガラス張りで見界戦闘（デロイアでは電波が使えないため）

太陽の牙ダグラムの特徴

- 第1話はダグラムが砂漠で朽ち果てているところから始まるという衝撃的なもの
- CB アーマーが決定的な役割を果たすことはない
- スポンサーはタカラ
- プラモデルがよく売れたので全75話という超大作（大河アニメとも呼ばれる）

太陽の牙ダグラムの舞台設定

- 遙か未来の地球植民星「デロイア」が舞台
- デロイアは二重太陽系の惑星で地球の食料供給源となっており、 \times ネブラ星雲の影響があり電子機器が使えない
- 入植者たちはデロイア人と呼ばれ、地球にいる人間からは差別されている
- 地球連邦からの独立運動が起きつつある

太陽の牙ダグラムの人物

- クリン・カシム：主人公、地球の連邦評議会議長の息子だが、父親とは袂を分かち、デロイアの独立運動に参加する熱血漢
- デビッド・サマリン：デロイア独立運動の指導者、クリンの素性を知っていながら独立運動に迎え入れる
- ドナン・カシム：クリンの父、地球のためにデロイアの独立を阻もうとする

太陽の牙ダグラムの人物

- ヘルムート・J・ラコック：ドナンの秘書官だが野心家、ドナンが病床に倒れると権力を振るうようになる
- コール・デスタン：独立運動の志士であったが、徐々に落ちぶれていき、ラコックの手下となる、最後に一番重要な役回りをする人物

太陽の牙ダグラムの始まり

- ドナンは独立運動グループに囚われてしまう
- 士官候補生であったクリンは父親を助けるため無理やりデロイアへ
- 父親の救出に成功と思ったら、ドナンが囚われていたのは独立運動派をあぶり出して弾圧するための芝居だった
- クリンは弾圧が酷すぎるのを見てゲリラ側につくことになる

太陽の牙ダグラムのいいところ

- 人物描写、政治の駆け引き、裏切りなどが作品の中で重視されており、中1の私は話の流れがわからなかった
- 大人になってから見直すと、ラコックとデスタン（ダメ人間）が特に面白い
- ドナンは死の直前に息子であるクリンの行動を認める
- サマリンも若者に未来を託して死ぬ
- そして、第1話の冒頭に戻る

装甲騎兵ボトムズ

装甲騎兵ボトムズの特徴

- アストラギウス銀河のギルガメスとバララントの2大勢力が戦う100年戦争末期が舞台の作品
- 登場するロボットはアーマードトルーパー（AT、装甲騎兵）と呼ばれる
- 量産機なので主人公は壊れれば乗り捨てる→主人公級のロボットはない
- 様々な映画作品の影響を受けている

装甲騎兵ボトムズの舞台設定

- 戦争の末期に主人公のキリコ・キュービィは秘密作戦に参加することになる
- 4つの場所（ウド、クメン、宇宙船、クエント）を移りながら話が展開する
- ウド＝ブレードランナー、クメン＝地獄の黙示録が元ネタとははっきりとわかる
- 後にTV本編の前後の話がOVAとして多く作られた

装甲騎兵ボトムズの人物

- キリコ・キュービィ：主人公、気がついたときから戦争しか知らずに育ち、ATの操縦技術は天才的、またあらゆる戦いで生き残る、ほぼ笑わない、語らない
- フィアナ：秘密作戦で出会った女性のパーフェクトソルジャー（PS）プロトワン、後にキリコが生きる意味を見出すきっかけとなる

装甲騎兵ボトムズの人物

- イプシロン：男性のパーフェクトソルジャー（PS）、キリコをライバルとして戦う
- ジャン・ポール・ロッチナ：キリコのいる場所に現れる謎の将校、実は物語の重要な鍵を握っている人物
- ゴウト、ココナ、バニラ：キリコを利用して金儲けを考えていたが、キリコが信頼するようになる仲間となる

装甲騎兵ボトムズのいいところ

- 主人公がロボットを使い捨てにする→リアルロボットの究極的な姿かも
- キリコが好んで搭乗するのはギルガメスの主力機スコープドッグ
- スコープドッグを好むのは単に慣れているからで、性能が高いわけではない
- ローラダッシュ、ターンピックという発明→作画の手間を減らせるだけでなく、スピード感のある戦闘シーンが作れる

機甲界ガリアン

機甲界ガリアンの舞台設定

- 惑星アーストが舞台
- 中世のような舞台設定だが、遺物として発掘されるロボット鉄巨人で戦う
- 敵であるマーダルという謎の人物
- 最初は惑星アーストのみが舞台であったが、実は高度に発達した銀河文明が背後にあった

機甲界ガリアンの人物

- ジョルディ・ボーダー：主人公、ボーダー王国の王子、12歳、鉄巨人ガリアンを操縦し、マーダルに捉えられている自分の母を救い出そうとする
- チュルル：ヒロイン、ジョジョの幼なじみ、最終回のエンディングでジョジョの妃になったことがわかる
- マーダル：征服王、ある日突然現れ、惑星アーストの支配者となる

機甲界ガリアンのポイント

- マーダルが実は異星人
- マーダルは惑星ランプレートから追放された人物
- 惑星ランプレートでは高度に発達した文明の結果、生きる活力をなくした人々だけになっていた
- マーダルはその人々の生きる活力を取り戻すのが目的

蒼き流星 SPT レイズナー

レイズナーの舞台設定

- 当時の近未来 1996 年の地球が舞台
- 第 1 部：主人公と地球の少年少女たちが地球侵略をする惑星グラドスと戦う話
- 第 2 部：征服された地球が舞台
- ロボットはスーパー・パワード・トレーサー（SPT）と呼ばれる

レイズナーの人物

- アルバトロ・ナル・エイジ・アスカ：主人公、惑星グラドスが故郷だが、父は地球の宇宙飛行士だったケン・アスカ、グラドスの地球侵攻計画を阻止するためにレイズナーで戦う
- アンナ・ステファニー：ヒロイン、異星人でもあるエイジを初めて信頼した人物
- ゴステロ：色々な意味で危険人物でもあり、人気もあった人物

レイズナーのポイント

- 第1部では主人公が徐々に受け入れられて地球人とともに戦う姿が描かれるが、最終的に地球の科学力ではグラドスに太刀打ちできず、地球は整復されてしまう
- 第2部は、ほぼ「北斗の拳」

まとめ

高橋良輔の作品

- ダグラム：革命
- ボトムズ：様々な映画のオマージュ
- ガリアン：ファンタジー要素
- レイズナー：宇宙戦士バルディオスと北斗の拳

いずれも当時の人気や話題のあったものを踏襲するつくりであったといえる

高橋良輔の作品と80年代

- ガンダムに始まるリアルロボット物は80年代のうちに終わりを迎えた
- 高橋良輔の作品も例外ではなく、ダグラムからレイズナーまでの作品はすべて80年代である
- ボトムズくらいまではプラモデルも売れたと思うが、80年代後半になるとプラモデルが売れないことも拍車をかけた